

なおえつ うみまちアート
記録集

Art Seaside Naoetsu
Archives

Session : 2021.8.1 - 9.26

なおえつ うみまちアート
実行委員会

も く じ

はじめに	1
ヴィジョン・テーマ	2
謝辞	3
会場	4
作家・作品展示	5
空間演出研究所・GELCHOP	6
西村優子・渡辺英司	7
青田真也・L PACK.	8
NAKAYOSI・松岡亮	9
作品の活用	10
開催概要報告	11
準備から閉幕まで	21
来場者アンケート	34
実行委員会・組織図	35
問い合わせ先・奥付	36

はじめに

「なおえつ うみまちアート」は、直江津を舞台に「未来への交感」をヴィジョン、「うみ/まち/ひと」をテーマとして開催いたしました。新型コロナウイルス感染症の世界的な拡大という状況下において、私たちは新しい視点であるアートを携え、かけがえのない街の未来のための一歩を踏み出しました。市内4ヶ所の会場で8組のアーティストが直江津の歴史や文化、風土に触れて紡ぎ出した新たな作品が、地域の方々やご来場いただいたみなさまと呼应して、あたかも街全体が美術館のように日々の暮らしを彩る58日間。見慣れたはずの街の新しい風景、初めての体験が、携わっていただく方々の心の中に発見や感動の光を灯す活力となることを目指しました。

そして、会期末を持ちまして、全ての展示及びイベントを無事終了いたしました。

特別な状況下での開催でありましたが、地域をはじめ多くの方々に支えていただき、さまざまな新しいチャレンジを行うことができました。

本プロジェクトの開催にあたり、ご尽力いただきました全てのみなさまに深く感謝申し上げます。

2021年9月

なおえつ うみまちアート実行委員会

ここ上越の地には、固有の風土気候に生きる智慧や矜持、美が重層的に秘められています。時代を越えて受け継がれてきた素晴らしい先人たちの財産で、遙か遠く未来までも照らしたい。文化や芸術が架け橋となって、街の魅力や賑わいをみんなで交感する風景をつくりたい。視線は、100年後の暮らし。2021年夏、今を生きる私たちの手で未来の人たちもよるこぶ直江津を目指し、この地のために生まれたアートを携えて、未来志向の新たなシビックプライドを醸成します。アートは、それにふれる人の目や心の中に存在し、人の数だけ違いがあって、その多様性を楽しみながら街の力にできるもの。今、私たちは未曾有の不確定で困難な状況に置かれています。これまでの日常を取り戻せなくても、私たちのアートで次なる社会を切り開くことができる可能性がこの地にあると信じています。みなさんとともにこれまで歩んできたこの道の先へ、勇気ある一歩で、新たな挑戦に踏み出します。

豊かな自然と海運で栄えた日本海に面した港町、直江津。古の時代から商いととも、さまざまな人や文化が漉き込みあって、その時々新たな価値を創造してきました。その営みの中に、アートの種が宿っています。アートは人間の根源から生まれた術であり、暮らしの中に息づく美しい生きる力。それは歴史という時間、街という空間と呼応しながら、普段意識することのない感覚をしなやかに揺さぶります。人は街、街は人。人が変われば街が変わり、街が変われば人が変わる。この夏は海辺の街に集うみんなで、ここにしかない新しい体験を創造し分かち合います。目が覚めたままみんなで見ると夢のような、うみとまちとアートが漉き込まれた街の景色がまた、新たな何かを生み出すでしょう。海を渡り、港を廻るかつての船のように、今を生きる私たちから未来への贈り物になることを願って。

謝辞

本プロジェクトの開催にあたり、ご支援ご協力賜りました関係各位とお客様みなさまに厚く御礼申し上げます。

■実行委員会への協賛金によりご協力いただいた皆様

新井電機株式会社	塚田敏成
石橋町内会	直江津海陸運送株式会社
駅南クリニック富樫医院	中田建設株式会社
株式会社大島組	西本町1・2丁目町内会
有限会社かねきゅうぼし	有限会社ハート1級建築士事務所
頸城運送倉庫株式会社	有限会社早川電機商会
頸城自動車株式会社	有限会社彦坂オフィスサービス
頸南バス株式会社	飛田テック株式会社
サトウ自転車店	有限会社富士電気工事店
Jマテ・ホールディングス株式会社	古川海運株式会社
塩浜町町内会	フルーツとみざわ
旬菜かがりび	株式会社保坂屋
松風園藤作	株式会社ホシノ釣具店
上越運送株式会社	株式会社ホテルセンチュリーイカヤ
株式会社新金谷	株式会社ホテルハイマート
新光町3丁目町内会	株式会社政木板金
株式会社禅 SHIZUKA	マルケーグループ月曜会
高助合名会社	丸山辰二
株式会社高館組	丸山治子
竹原テント商会	株式会社丸互
田中産業株式会社	株式会社村尾技建上越支店
田辺工業株式会社	モスバーガー直江津店
中央1丁目・あけぼの町内会	企業名・氏名非公表希望 4社2人

■企業版ふるさと納税によりご協力いただいた皆様

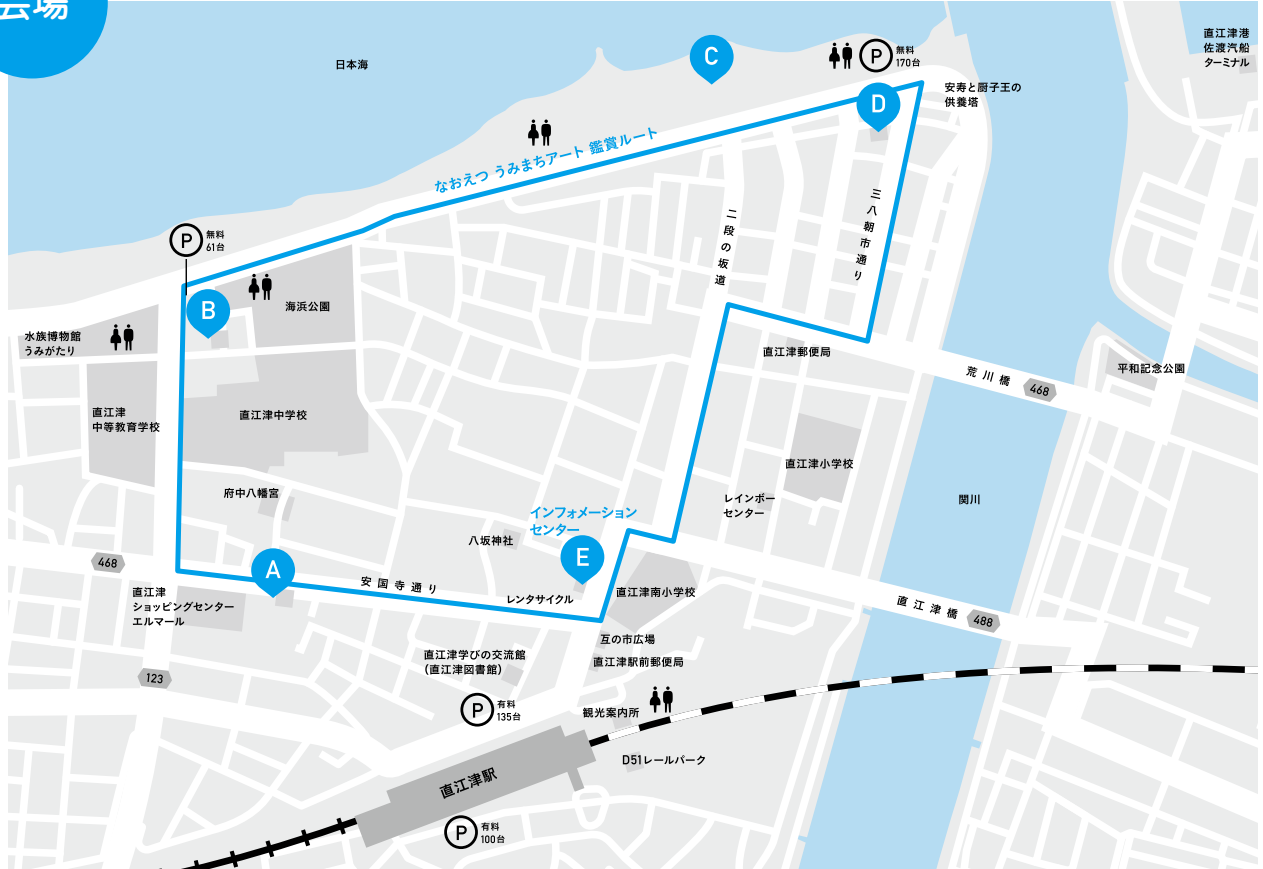
株式会社植木組	富士通 Japan 株式会社新潟支社
株式会社加賀田組	株式会社良品計画
株式会社クレイズプラン	企業名非公表希望 1社
株式会社福田組	

■作品制作にご協力いただいた皆様

国立大学法人上越教育大学
学校法人関根学園高等学校美術部
上越市立直江津中学校美術部
ボランティアとして参加された皆様

(敬称略、五十音順)

会場

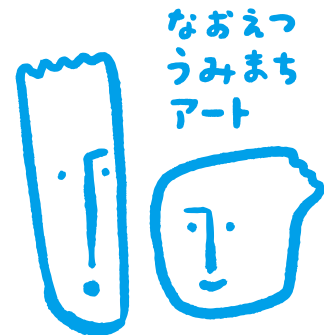


新潟県上越市直江津地区

- A** 安国寺通り特設会場〔上越市西本町 3-8-17〕
 GELCHOP —— 「直江津アップサイクルセンター」
 青田 真也 —— 「A.B.in Naoetsu」
 L PACK. —— 「Atelier Shop Naoetsu」
 NAKAYOSI —— 「アーティストマーケット NAKAYOSI」
 松岡 亮 —— 「動く。動き出す。遊び。」
- B** 直江津屋台会館〔上越市西本町 4-18-12〕
 渡辺 英司 —— 「名称の海園／めいしょうのみその」
- C** 船見公園周辺海岸会場〔上越市中央 4-16-10〕
 空間演出研究所 —— 「そらのみなと」
- D** ライオン像のある館（旧直江津銀行）〔上越市中央 3-7-31〕
 西村 優子 —— 「100年後・旧直江津銀行の姿」
- E** インフォメーションセンター（なおえつ茶屋）〔上越市中央 1-5-2〕

まちなか各所

- 渡辺 英司 —— 「小さな屋台／移動案内車」



空間演出研究所

くうかんえんしゅつ
けんぎゅうじょ

空間演出研究所は、東京藝術大学デザイン科第3研究室のメンバーを中心に、2016年末に活動を開始。代表は東京藝術大学博士課程の西穀徳、所長は同大学デザイン科准教授の鈴木太郎。私たちの望む表現の夢を、フレームに収まることなく社会に対して仕掛けてゆく。

メンバー：西穀徳、金森由晃、土田恭平、中山ゆめお、武藤琴音、山田彩七光、鈴木太郎

<https://design-sd.geidai.ac.jp/>

GELCHOP

ゲルチョップ

2000年に結成。モリカワリョウタ、オザワテツヤ、タカハシリョウヘイ、3人の工作好きによって活動を続ける3D造形グループ。ハンドワークで、イメージと現実の世界をつなぐ、立体というカテゴリーのもと、多岐に渡って活動。パブリックスペースのアートワーク、オリジナルプロダクト、はたまた、玩具、農作物、車、建築、エネルギー、コミュニティにいたるまで、つくるということをD.I.Y.精神をもって探り、手を汚す日々を過ごす。

<http://www.gelchop.com/>

西村優子

にしむらゆうこ

1978年生まれ。日本大学芸術学部デザイン学科建築デザインコース卒業、筑波大学大学院修士課程芸術研究科デザイン専攻構成分野修了後、紙の造形作家として活動。日本古来の「折りのかたち」を継承していくにあたり、「折り紙」の分野だけにとどまらず、折りの可能性を追求したいと考えている。古来より受け継いできた日本人の心のかたちを、文化と造形の接点として現代の造形にしていこう試みを行っている。折形デザイン研究所のメンバーでもある。

渡辺英司

わたなべえいじ

1961年生まれ。1985年愛知県立芸術大学彫刻科卒業。名古屋市在。2004-2005年文化庁芸術家在外派遣研修員としてスコットランドに滞在(エジンバラ芸術大学客員研究員)。主な展覧会：2001「出会い」展東京オペラシティアートギャラリー(東京)、2007「笑い展：現代アートにみる「おかしみ」の事情」森美術館(東京)、2010「第1回あいちトリエンナーレ」(名古屋)、2017「Art Zuid 2017」アートチャペル(アムステルダム、オランダ)など。

青田真也

あおたしんや

アーティスト。身近な日用品など、さまざまなもの見慣れた表層をヤスリで削る作品シリーズを中心に、本質や価値を問い直す作品を制作。主な展示に、「あいちトリエンナーレ 2010」、2014年「日常／オフレコ」(神奈川芸術劇場)、「MOT アニュアル 2014」(東京都現代美術館)、「青田真也 | よりそうかたち」(Breaker Project、大阪、2018年)など。また名古屋港エリアのアートプログラムやフェスティバルの共同ディレクターも務める。

<http://www.shinyaoota.com/>

L PACK.

エルバック

小田桐奨と中嶋哲矢によるユニット。共に1984年生まれ、静岡文化芸術大学空間造形学科卒。アート、デザイン、建築、民藝などの思考や技術を横断しながら、最小限の道具と現地の素材を臨機応変に組み合わせた「コーヒーのある風景」をきっかけに、まちの要素の一部となることを目指す。

<http://www.lpack.jp/>

NAKAYOSI

なかよし

L PACK. (小田桐奨、中嶋哲矢)と青田真也のユニット。2012年の「ポジション 2012」展(名古屋市美術館)にて、コラボレーションカフェを開催。2013年の「あいちトリエンナーレ 2013」会期中、NAKAYOSIとして長者町会場に期間限定の伝説的スペース「VISITOR AND STAND CAFE」をオープンした。訪れる人が心地良く親しみを持って参加できるイベントや企画を行う。

松岡 亮

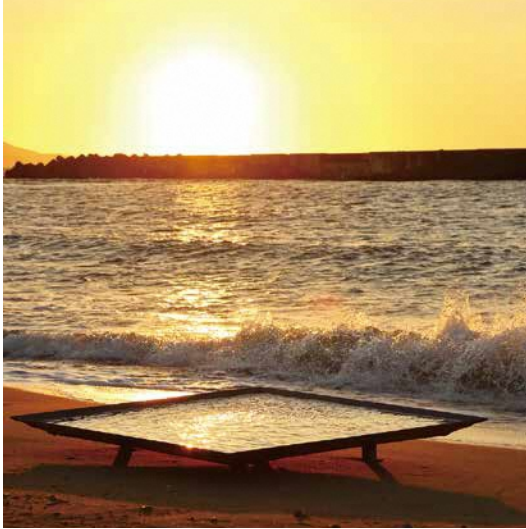
まつおかりょう

絵を描く。刺繍や布のコラージュ作品なども発表。何時からだったか子供の頃から描き続ける。それが生活や旅に繋がり、人に繋がり瞬間や場所に繋がり、描き続ける事に繋がる。繋がる中で絵やインスタレーション、壁画、刺繍の制作など、solo exhibitionやlive paintなど国内外を問わず活動を続ける。

<http://www.ryoart.com/>

空間演出研究所

くわかんえんしゅつ
けんぎゅうじょ



「そらのみなと」 船見公園周辺海岸会場

見慣れた景色だからこそ意識しないと見落としてしまう、美しい直江津、日本海の光景。波の満ち引きによって作品にすくい取られた海水は、海と同じ面を保ち、鏡面のように空の色を映します。そこに現れる空の色は、毎日、毎時間、毎分、毎秒ごとに、ひとつとして同じにはなりません。壮大な海を切り取り、空をすくって並べることで、見慣れた景色がいくつもの単位として目前に再構成されます。自らの手中に世界をつかんだようなその感覚は、日常に溶け込んでしまった“感動”と、新たな“発見”を呼び起こします。

GELCHOP

ゲルチョップ



「直江津アップサイクルセンター」安国寺通り特設会場

上越市内の統合し閉校した学校から探してきた、少年少女時代に使用していた学びのための資材を、子供から老人世代までもが楽しむ事ができる、世代をまたぐ道具などへ変換するアップサイクルプロジェクト。昔使っていた馴染みのある既製品に少し手を加え、通常とは別の用途で使用してみたり、機能を助長させてみたり、物と物を組み合わせて意味を変化させてみたりと、いつもとは少し違う姿に転生をさせます。それは、認識、常識を違う角度で眺めるための試みです。

街の未来を築く子供たちへの全額寄付を前提に、一部の作品は鑑賞するだけでなく希望される方に譲渡する事で、展示終了後も作品が街の皆さんの暮らしに還元されていく有機的な循環全体を作品として制作しました。

西村優子
にしむらゆうこ



「100年後・旧直江津銀行の姿」ライオン像のある館（旧直江津銀行）

その館は、約130年前に旧直江津銀行として誕生しその後、海運業の回漕店の時を経て、今のそばでその時を物語っているかのように静かに佇んで見えました。海、陸の要地として繁栄してきた直江津において、経済の拠点であった館。その中で、多くの往来をしていた紙幣。まるで水のようにたどる経済の流れを長年、物質として存在し続けてきた紙幣は、現代において電子マネー化により、その存在が消えつつあります。100年後、この紙幣はどうなっているでしょう？経済の流れの中で行き交ったさまざまな人や物、情報の記憶をすき込んだ紙幣。もし紙幣の役目を終えた紙が、銀行の中に残り続けていたとしたら。旧直江津銀行の100年後の姿を紙で想像します。

渡辺英司
わたなべえいじ



「名称の海園／めいしょうのみその」直江津屋台会館

数十冊のキノコ植物や魚図鑑から図版のみを切り抜き、直江津屋台会館全体に展示します。人が確認し名前を付けた植物は再度無名のイメージとして花園となり、ドブネはかつて海だったイメージを想起させ、そこに「海の園」が出現します。

青田 真也
あおたしんや



「A.B.in Naoetsu」 安国寺通り特設会場

既成のガラス瓶にサンドブラスという技法で表面を曇りガラスのような表情にすることで、普段見慣れたガラス瓶のイメージから少しズラしたような違和感のあるものが生まれ、普段私たちが何を見ているのかということ問いかけます。時間帯や場所によって、さまざまな表情を魅せるこの表現は、海に浮かぶ漂流物が長い時間をかけて姿を変化させるように、直江津が長い時間と歴史のなかで豊かなまちとして形成されてきたことや、あらためて直江津が海のまちであることやその魅力を観る人びとに喚起させます。

L PACK.
エルパック



「Atelier Shop Naoetsu」 安国寺通り特設会場

直江津で見つけた元々このまちに存在する風景を切り取った写真や、オブジェなどを集めたセレクトショップ。
『誰かの日常は、誰かの非日常になることができる』 - 直江津の暮らしの営みや、当たり前になっているであろう日々の風景から発見した、直江津ならではの面白い物事が、写真やオブジェの作品を通して展示されます。
『新しい直江津』と出会うことができる場所をつくり出します。



「アーティストマーケット NAKAYOSI」 安国寺通り特設会場

L PACK.と青田真也とのコラボレーションイベント。1日限定のアーティストマーケットを開催。なおえつ うみまちアートの参加アーティストのグッズや、直江津限定の飲食メニューが登場します。ここからアーティストとの出会いや新たなコミュニティをつくり出します。



「動く。動き出す。遊び。」 安国寺通り特設会場

シャツへの布のコラージュ作品をベースに、時間が育み人と街が主役になる作品。「美しさはただそこにあるだけ。気付かなければ通り過ぎてしまう。生活の中で、あなたの心が動く。動く事で、そこに咲く美しさに気が付く。気が付く事で、美しさも存在を始め、動き出す。あなたが動いた事で、ずっとそこにあった・動けず気付かれなかった・美しさは動き出す。あなたが動かし始める、心も美しさも。広がって繋がっていく。動かなければ、動かない。動き。遊び。Ryo Matsuoka」

作品の活用

● 渡辺英司の「小さな屋台/移動案内車」 直江津地区の小学校への寄贈と活用

「小さな屋台/移動案内車」は6台制作され、2台が作品として展示されたほか、作家のまちなか移動ワークショップに使われた。4台は、なおえつ うみまちアートのサインとして、三・八の市の入口に置かれたり、希望者に貸し出して移動販売車となったりして会期中、まちなかの各所で活用された。

作家から会期後に直江津地区の小学校で活用してほしいという希望があり、9月26日のクローズングセレモニーにおいて、作家から小学校に贈呈された。今後、各学校では、総合学習や学習発表などの機会に活用していく。

【寄贈作品】「小さな屋台/移動案内車」 4台



● GELCHOPのアップサイクル作品譲渡による寄附金、貸与作品の活用

GELCHOPは、閉校になった市内の小学校（末広小、中保倉小）に残されていた旧式で使用されない教材・教具をアイデアとユーモアにあふれた新たな造形作品にアップサイクルして、安国寺通り特設会場に設けたアップサイクルセンターで展示した。

展示を行ったアップサイクル作品は、鑑賞することだけが目的ではなく、非日常的な価値と向き合う事や、経済的な循環も含めた作品であり、一部作品は希望者に対し、直江津まちづくり活性化協議会への寄附を条件に作品の譲渡を行った。1,223,500円の寄附が集まり、まちの未来を担う子どもたちの取組の支援として今後活用される。

【貸与作品】

- ・ Glove Fan
（地球儀扇風機）
- ・ International Jacket
（インターナショナル ジャケット）
- ・ Stove Fan
（ストーブ型扇風機）
- ・ Agrippas Charcoal Brazie
（アグリッパの七輪）
- ・ Whisper Megahorn
（ささやきメガホン）
- ・ Tennis Ball Message Board
（テニスボール メッセージボード）
- ・ Straw Snow Boots Sneaker
（わらぐつ スニーカー）
- ・ Drummap
（ドラマップ）
- ・ 人体模型の子供
- ・ アップサイクルセンター サイン

